タイムスケジュール

★8月1日㈮

少年部奉燈前夜祭

14:00　東三区出発 東へ向う
15:00　東三、二、一区東端に到着(30分休憩)
15:00　東四区出発 西へ向う
15:30　西一、二、東四区西端に到着(30分休憩)
15:30　東一区先頭に出発　堂前へ向う
16:00　東四区先頭に出発　堂前へ向う
16:30　東一区より順に堂前入場
17:30　各奉燈 堂前広場の所定の位置につく
18:00　各奉燈　堂前広場を乱舞　解散

★8月1日㈮

西三区奉燈前夜祭

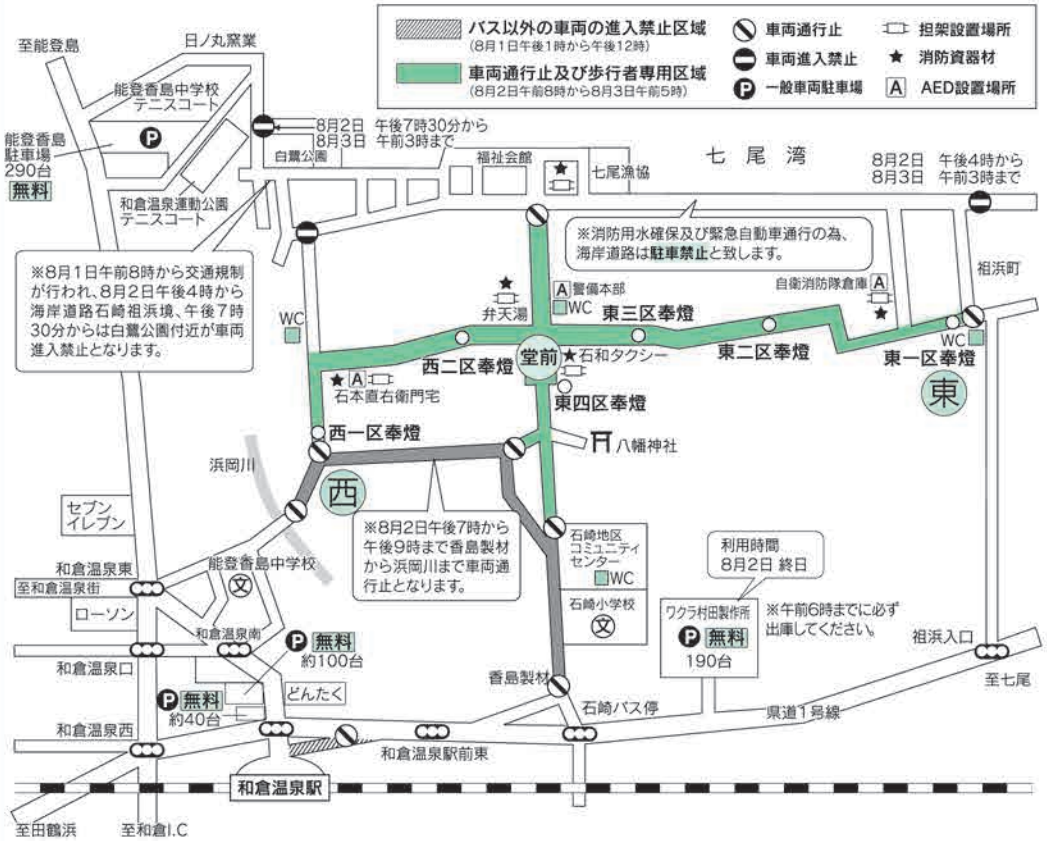
16:00　小奉燈 駅前廻り出発
17:00　小奉燈 駅前廻り終了
18:30　大・小奉燈 安全祈願祭、終了後に記念写真
19:00　大奉燈 駅前広場出発
20:00　終　了

★8月2日㈯

花火一発 9:00　石崎小学校マーチングバンド演奏大行進
花火一発 14:00　東三区出発　東へ向う
花火一発 14:20　東四区出発　西へ向う
14:20　東一区東端へ到着(20分休憩)
14:40　東四区西端へ到着(20分休憩)
花火一発 14:40　東一区先頭に出発　堂前へ向う
15:00　東四区先頭に出発　堂前へ向う
15:20　東一区、東二区、東三区、東四区、西二区、西一区順に堂前入場
大奉燈堂前乱舞
16:30　大漁祈願祭、終了後に記念写真
17:10　大奉燈堂前乱舞
18:00　夕食とする
花火三発 20:00　夕食後、堂前出発(東一区先頭に西へ向う)
20:20　西一区西端に到着(20分休憩)
20:40　西一区奉燈先頭に東へ向う
22:00　東一区東端に到着(20分休憩)
22:20　東一区奉燈先頭に堂前へ向う
22:50　堂前到着
24:00　解　散

文化庁日本遺産(Japan Heritage)認定
「灯り舞う半島 能登～熱狂のキリコ祭り～」

石崎奉燈祭運行図



■交通アクセス

自動車で(のと里山海道　和倉I.Cで下車)

■東京から／東名・名神・北陸自動車道・のと里山海道にて……約7時間30分
関越・北陸自動車道・能越自動車道にて……約6時間30分
■大阪から／名神・北陸自動車道・のと里山海道にて……約5時間
■名古屋から／名神・東海北陸自動車道・能越自動車道にて……約4時間
名神・北陸自動車道・のと里山海道にて……約4時間
(北陸自動車道「金沢森本I.C」からのと里山海道をご利用いただくと便利)
■金沢から／のと里山海道にて……約1時間20分
■富山から／北陸自動車道・能越自動車道にて……約1時間50分
■高岡から／能越自動車道にて……約50分
※駐車場の台数に限りがございますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。

JRで(和倉温泉駅着)

■東京から／北陸新幹線「かがやき」で金沢乗換え、特急「能登かがり火」利用…約3時間35分
■大阪から／特急「サンダーバード」で敦賀乗換え、北陸新幹線「つるぎ」で金沢乗換え・特急「能登かがり火」利用……約3時間50分
■名古屋から／東海道新幹線「ひかり」または特急「しらさぎ」で敦賀乗換え・北陸新幹線「つるぎ」で金沢乗換え・特急「能登かがり火」利用…約3時間30分
■金沢から／特急「能登かがり火」利用……約1時間

飛行機で(のと里山空港着)

■東京(羽田)から／のと里山空港からふるさとタクシー利用……約1時間30分
※ふるさとタクシー(中島タクシー☎0767-66-0114)をご利用ください。
お問い合わせ……石崎奉燈祭奉賛会……☎0767-62-2835
お泊り……【旅館】和倉温泉旅館協同組合……☎0767-62-1555
【民宿】能登鹿北商工会能登島支所……☎0767-84-1087

ISSAKI HOUTOU MATSURI 2025

石崎奉燈祭

令和7年8月2日㈯
毎年8月第1土曜日
前夜祭　8月1日㈮

能登のキリコ祭り

湯の香 潮の香 さわやか
わくら
能登半島・和倉温泉

石崎奉燈祭奉賛会

能登ふるさと博

石崎奉燈祭の紹介

七尾市石崎町は、昔気質が今に残る活気あふれる漁師町。海の男達が一年に一度熱い血潮をたぎらせる祭りが石崎奉燈祭である。

この祭りは、その昔石崎八幡神社の納涼祭（お涼み）で、京都祇園祭の流れを汲んだ山車が繰り出されていたが、度重なる大火に見舞われ中断を余儀なくされた。町の復興が整い始めた明治22年、山車に代わり、網すき（網大工）の口添えで奥能登から古い「キリコ」を移入して再興したものが現在に受け継がれている。大漁祈願、五穀豊穣はもとより、火を恐れ鎮める神事としたことから「奉燈」と呼び、平成7年まで京都祇園社の例祭日にあたる旧暦6月15日に行われていた。

祭り当日、どこからともなく聞こえてくる祭囃子が祭り気分を盛り上げる。ねじり鉢巻に地下足袋を履き、きつく締めたサラシにお守りを携えた男達とそれを見守る女達。町中には「サッカサイ、サカサッサイ、イヤサカサー」と威勢のいい掛け声が響き渡る中、奉燈が練り歩く様はまさに圧巻。なにしろ1基を100人程で担ぐのだから、その統制ぶりも見事。夜には奉燈に灯火が献じられ、浮かび上がった大書の墨字や武者絵が幻想的な空間を醸し出す。クライマックスの奉燈の乱舞競演では、担ぎ手、観客の興奮は最高潮に達することだろう。

みどころ　堂前広場での乱舞競演は豪快!
立ち並ぶ家々の軒先をかすめて進む様は迫力満点!

◆東一区奉燈（旧呼称　前場出、小坂出）

大文字／魚満浦（読み：魚が浦に満ちる）　町内カラー／緑

文字通り魚が満ち溢れる海岸や浜辺を表し、大漁を意味している。東一区の特徴は、奉燈が動き出す前に囃子と呼ばれる独特の祭囃子がある。昔はどの町の囃子にも使われていたが、現在は東一区と東二区だけが囃子を使っている。囃子の間、担ぎ手は体勢を保持したまま耐えたので足や腰に相当負担がかかった。また、東に神様の家と呼ばれる孫次郎の家があるため、堂前には東から順に入堂する。

◆東二区奉燈（旧呼称　十七軒山町）

大文字／満年楽（読み：満年　楽あり）　町内カラー／黄

東二区の代名詞は、裏の絵に使われる浦島太郎。なぜ、浦島太郎なのかはわからないが、昔から使われている。ごく稀に武者絵を使用するときもあるが、担ぎ手の話だと、なぜか浦島太郎以外の絵を使うと奉燈が重く感じたり、思うように動かないとのこと。

また、同じ浦島太郎でも亀に乗った絵と玉手箱を開けている絵があるが、亀に乗っている浦島太郎の絵が一番評判が良い。

◆東三区奉燈（旧呼称　左近殿山町、寺町）

大文字／志欲静（読み：志静ならんと欲す）　町内カラー／赤

文字は、おそらく奉燈の欄間と呼ばれる部分に書かれた文字と対句と思われ、意味は、荒ぶることなく静かに志を遂げるよう願うこと、となる。昭和20年代から使用していることから、当時の世相を反映しているのではないかと考えられる。また、以前は唯一法被の着用を禁止していた町であり、その名残は現在でも見受けられる。赤みを帯びた肌に町内カラーの赤パンツが映える。

◆東四区奉燈（旧呼称　三四郎山町）

大文字／智仁勇（読み：智　仁　勇）　町内カラー／青

智仁勇とは史記に記述されており、智（知）は、是非・善悪を判断する能力を意味し、仁は、慈しみや思いやり。勇は、勇気や気力、雄々しさを意味する言葉で、もっとも基本的な三つの徳のことである。過去に一度だけ使用したことで幻となっていた翔龍舞の大書は、現在では使用されるようになった。また、最初に青一色の武者絵を描き上げた町で、奉燈に見事に調和し、絶妙なコントラストを生み出している。

◆西一区奉燈（旧呼称　白崎）　町内カラー／白

大文字／襲銀鱗（読み：銀鱗（魚）を襲う）、郡魚舞、銀鱗飛躍

いずれも漁師町らしく、群れをなしていた魚が網にかかり、銀色の鱗をきらきらと輝かせながら、網の中で勢いよく舞うように飛び跳ねる様を表しており、大漁を意味している。裏の絵は、ほとんどの奉燈が武者絵を多く使っているが、西一区は観音様を使うこともある。現在の観音様の絵は何代目なのか定かではないが、不思議とこの絵を使うと奉燈がよく動き、何年も破れずに使われている。

◆西二区奉燈（旧呼称　中田浦町、中町）

大文字／満祥雲（読み：祥雲が満ちる）　町内カラー／桃

めでたい雲が空を覆う兆しと言う意味で、漁師が多い西二区では、夜空が明るすぎると魚が逃げてしまうため、雲で月を覆うことで大漁を予感させる前兆と言う意味にも使われているようだ。また、裏の絵は、漁をもたらす神の恵比寿様や鯉仙人を使うことが多く、大漁を祈願している。また、西二区と西一区は今でも明治以前に使われていた呼称である中町、白崎と呼ばれることが多い。

◆西三区奉燈

大文字／慶雲飛（読み：慶雲が飛ぶ）　町内カラー／紫

西三区は新しくできた町で昔は海だった。当然、奉燈もなかったが、昭和60年に石崎町の古い奉燈を譲り受け、大小1基ずつ持つようになった。文字はめでたい事がある前兆の雲を表している。現在のところ、前夜祭として駅前ロータリーで祭りを開催。駅前とあって観光客の誘客や祭り気分を盛り上げる大きな役割を担っている。